

県立学校等若年教員研修会1年目 教科別等研修《数学》

教科別等研修のねらい



福岡県教育センター



共創しよう!
教育の未来

Fukuoka Prefecture / Fukuoka Prefectural Education Center

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

教科別等研修のねらい

【質問】 教科別研修は何のためにするの？

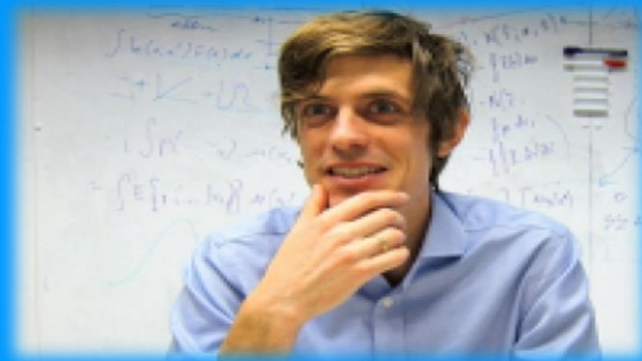
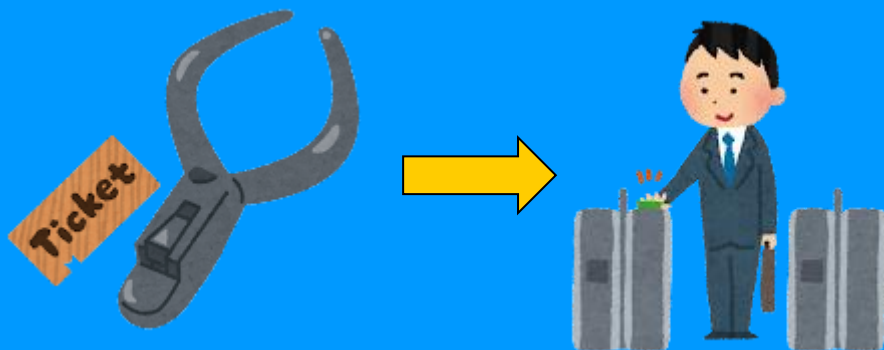
- ☆ 教科の専門性の向上
- ☆ 実践的な指導力の向上
- ☆ 初任者間の一体感の醸成

所属校における教科研修・一般研修

- 研究授業 … 3回
 - ・ 1学期中に1回
 - ・ 2学期中に、出来るだけ全3回を実施

- ◆ どのような授業がしたいですか？
- ◆ 数学の授業を通して
生徒に何を伝えたいですか？
- ◆ そのためには何が大切ですか？

「今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い。」



マイケル・A・オズボーン
(オックスフォード大学准教授)

子供たちが身に付けるべき力は？

加速度を増し、複雑で予測困難な社会の到来



変化を前向きに受け止める

- ・よりよい未来、社会や人生を創れるよう考える
- ・主体的に学び続けて自分の能力を引き出す
- ・試行錯誤したり、協働したりして新たな価値を生み出していく

流行

「生きる力」「資質・能力」の育成

教員として必要とされる力は？

- ◆ 使命感、責任感、教育的愛情
- ◆ 専門的知識、実践的指導力
- ◆ 総合的人間力
- ◆ コミュニケーション能力

不易

県立学校教員育成指標の確認

ステージ 職 キーワード		養成	基礎・向上
		教諭	
		志・基盤	基礎・基本
資質・能力		教員として、教育に対する志を高め、求められる資質・能力の基盤を形成する。	若年教員として、教育に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。
教職としての 素養	教育公務員に求められる 基礎的な能力 (法令遵守)	教職の意義や法令遵守の重要性を理解できる。	教育、学校及び教職の意義や社会的役割・サービスに係る理解を深め、法令を遵守し、責任をもって自らの職責を果たすことができる。
	教育公務員に求められる 基礎的な能力 (事務処理)	学校事務の内容について理解できる。	学級事務の正確・丁寧な処理ができる。
	教育公務員の使命と 責任 (使命感と熱意)	教育公務員の崇高な使命を理解し、志を立てることができる。	教育公務員としての自覚をもち、組織の一員として円滑なコミュニケーションを取りながら行動し、良好な人間関係を構築できる。
	学校組織の 理解と参画	学校組織や校務分掌とともに、学級担任の役割と職務内容を理解できる。	学校の教育目標・重点目標、学級経営及び教科経営の方針を理解し、実践できる。

県立学校教員育成指標の確認

資質・能力		ステージ	養成	基礎・向上
		職	教諭	
		キーワード	志・基盤	基礎・基本
			教員として、教育に対する志を高め、求められる資質・能力の基盤を形成する。	若年教員として、教育に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。
教職としての素養	自己啓発・人材育成	研修や自己啓発により、教員としての資質を高めることの重要性を理解できる。	自己の役割を自覚し、教育活動に関わるとともに、研修等を通して教育に関する基礎・基本を身に付けるために学び続けることができる。	
	保護者・地域との連携・協働	ボランティア活動等を通じて、保護者や地域等を含めた他者との協力や関わりの重要性を理解できる。	保護者や地域と積極的に関わり、連携・協働を通じて課題解決に向けて対応することができる。	
	危機管理	危機管理についての知識や重要性及び危機を察知した際の組織的な行動の大切さを理解できる。	事故や災害等に普段から備え、安全に配慮した教室環境等の整備と、危機を察知した際の迅速な対応ができる。	
	自他の人権を尊重する意識・意欲・態度	人権問題を自分自身の課題としてとらえ、人権尊重の精神に基づき、人権に配慮した行動をとることの重要性を理解できる。	人権問題を自分自身の課題としてとらえ、人権や人権擁護に関する基本的な知識を学び、その内容と意義についての理解と認識を深めるとともに、人権がもつ価値や重要性を共感的に受けとめるような感性や感覚を身に付け、それに基づく教育活動を行うことができる。	

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

県立学校教員育成指標の確認

資質・能力		ステージ	養成	基礎・向上
		職	教諭	
		キーワード	志・基盤	基礎・基本
			教員として、教育に対する志を高め、求められる資質・能力の基盤を形成する。	若年教員として、教育に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。
学習指導	授業構想	学習指導要領の理念と内容を理解するとともに、授業のイメージをもつことができる。	学習指導要領の理念と内容に基づき、教科書の内容に応じた指導計画を立案できる。	
	授業展開	授業展開の基盤となる教育技術を理解できる。	各教科等の専門的知識と基礎的・基本的な指導技術を身に付けた授業展開ができる。	
	授業評価と改善	学習評価の意義と方法について理解できる。	児童生徒一人一人の学習状況を把握し、適切な指導と評価ができる。	

教科別等研修のねらい

- ◆ 学習指導要領についての理解
- ◆ 教材研究
- ◆ 学習指導案
- ◆ 授業改善
- ◆ 課題研修

授業とは？

よい授業とは？

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

教科別等研修の1年間の流れ

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

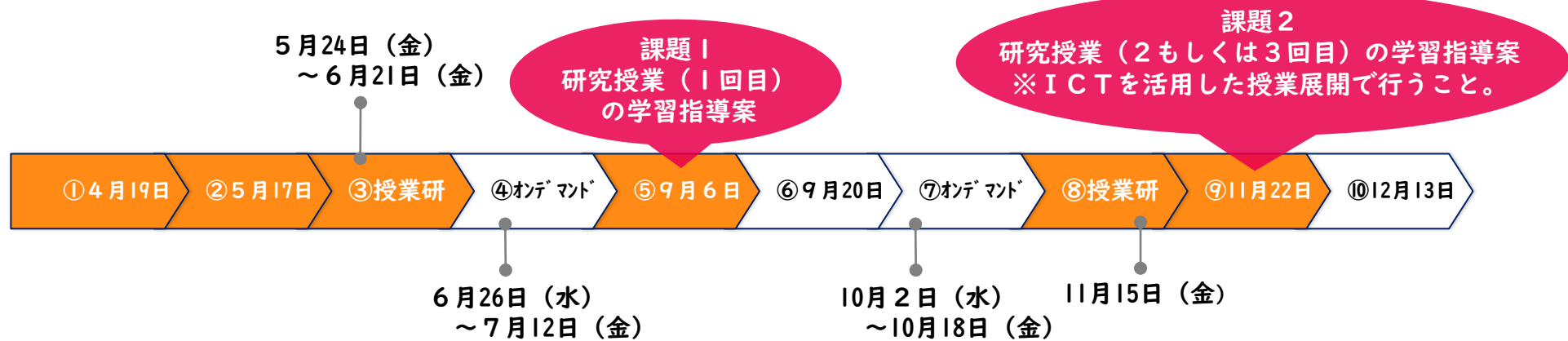
若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

	所属校		教育センター
若年研	授業研修	課題研修	教科別等研修
1年目	週1～2時間程度 (年間50時間程度) 初任者研究授業3回 先任者示範授業2回	課題研修	教科別等研修 授業研修 (2回)
2年目			教科別等研修
3年目	研究授業2回		教科別等研修 (課題研修発表 会を含む)

福岡県教育センターでの教科別等研修（1年目）



○授業研修

初任者全員で、授業研修を行う（該当校、県教育センターで実施）。

県教育センターから依頼し、授業者が決定する（先任者示範授業＋初任者研究授業）。

○課題

管理職の確認を受け、課題提出先にE-mailで提出する。

○持参物（タブレット等による持参も可）

①「令和6年度県立学校教員研修資料」

②「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（数学編 理数編）」

③「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 数学）」

④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校 数学）」

福岡県教育センターでの教科別等研修

● 授業研修 … 2回

- ・5月24日(金)～6月21日(金)に、1回**該当校で**実施する。

※初任者全員で、授業研修を行う。

県教育センターから依頼し、授業者が決定する。

(先任者示範授業+初任者研究授業)

- ・11月15日(金)に、1回**福岡県教育センターで**実施する。

課題の提出について

1回目の課題提出

学校ごとにまとめて8月30日（金）17:00までに提出

9月6日（金）の若年教員研修会に、
課題持参部数一覧表に指定された部数を持参

2回目の課題提出は

11月15日（金）17:00 （若1⑧の日）

持参は11月22日（金）

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

若年教員研修3年間の流れ

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

所属校

教育センター

若年研	授業研修	課題研修	教科別等研修
1年目	週1～2時間程度 (年間50時間程度) 初任者研究授業3回 先任者示範授業2回	課題研修	教科別等研修 授業研修 (2回)
2年目			教科別等研修
3年目	研究授業2回		教科別等研修 (課題研修発表 会を含む)

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

若年教員研修会 1年目 日程

		9:40 (受付は9:00~9:30)			16:00			備考	
第1日	4月19日(金)	開会行事	全体会 (10:00~10:45) 《講話》 「新任教師に期待する」 県教育センター 部長	全体会 (11:05~12:00) 《説明・講義》 「若年教員研修の概要・意義」 県教育センター 指導主事	全体会 (13:00~14:20) 《講話》 「教職員の倫理観 ~不祥事防止について ~」 県教育庁教育総務部教職員課	教科別等研修 (14:40~16:00) 《講義・演習・協議等》 県教育庁教育振興部高校教育課 県体育研究所、県教育センター 指導主事	諸連絡		
第2日	5月17日(金)	事業紹介	全体会 (9:50~10:20) 《講話》 「授業技術の基礎・基本」 県教育センター 指導主事	部会別 (10:30~11:00) 《講義・演習・協議》 「学習指導案の作成」 県教育センター 指導主事	教科別等研修 (11:20~12:40) 《講義・演習・協議等》 県教育庁教育振興部高校教育課 県体育研究所、県教育センター 指導主事	全体会 (13:40~14:00) 《演習》 「ICTを活用した授業改善」 県教育センター 指導主事	全体会 (14:00~16:00) 【免】 《講義・演習》 「ICTを活用した授業改善」 熊本大学 特任教授 前田 康裕	諸連絡	
第3日		教科別等研修 《授業研修①》 県教育庁教育振興部高校教育課、特別支援教育課、体育スポーツ健康課、県体育研究所、県教育センター 指導主事 ※5月24日(金)~6月21日(金)の期間中の1日に、各教科別等に学校等を会場として実施						諸連絡	県立学校等 (会場)
第4日		全体会 (60分) 《講義・演習》 「特別な教育的支援を要する児童生徒等の理解と指導」 県教育センター 指導主事	全体会 (60分) 【免】 《講義・演習》 「教員としての社会性」 キャリア・サポート・オフィス一步 代表 財津 香壽子	部会別 (60分) 【免】 《講義・演習》 「キャリア教育について」 県教育センター 指導主事	部会別 (60分) 【免】 《講義》 「学級・ホームルーム経営の基本」 県教育センター 指導主事	オンデマンド視聴期間：6月26日(水)~7月12日(金) ※詳細は別途通知する。			オンデマンド視聴

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

若年教員研修会 1年目 日程

		9:40 (受付は9:00~9:30)	16:00		備考	
第5日	9月6日 (金)	教科別等研修 (9:40~12:10) 《講義・演習・協議等》 県教育庁教育振興部高校教育課、県体育研究所、 県教育センター 指導主事 ※保健体育は県立スポーツ科学情報センターで実施		教科別等研修 (13:10~16:00) 《講義・演習・協議等》 県教育庁教育振興部高校教育課、県体育研究所、 県教育センター 指導主事 ※保健体育は県立スポーツ科学情報センターで実施		諸連絡
第6日	9月20日 (金)	全体会 (9:40~11:10) 《講義・演習》 「教職員のメンタルヘルス」 ※県教育庁教育総務部教職員課が依頼	全体会 (11:30~12:30) 《講義》 「人権教育を推進するに当たっての基本的な考え方」 県教育センター 指導主事	全体会 (13:30~16:00) 【免】 《実践発表》 「よりよい学級・ホームルーム経営のために」 県立学校 教諭 他		諸連絡
第7日		全体会 (40分) 《講義・演習》 「情報活用能力の育成について」 県教育センター 指導主事	部会別 (60分) 《講義》 「道徳教育の在り方」 県教育庁教育振興部高校教育課、 特別支援教育課 指導主事	全体会 (50分) 《講義・演習》 「保護者等対応について」 県教育庁教育振興部高校教育課 指導主事	全体会 (90分) 【免】 《講義・演習》 「安全管理と学校事故の対応」 県教育庁教育振興部高校教育課 指導主事	オンデマンド視聴
オンデマンド視聴期間：10月2日(水)～10月18日(金) ※詳細は別途通知する。						
第8日	11月15日 (金)	全体会 《授業研修②》 県教育センター 指導主事				諸連絡
第9日	11月22日 (金)	全体会 (9:40~10:40) 《講義・協議》 「いじめ・不登校に対する指導」 県教育庁教育振興部高校教育課 指導主事	教科別等研修 (11:00~12:00) 《講義・演習・協議等》 県教育庁教育振興部高校教育課、 県体育研究所、県教育センター 指導主事	教科別等研修 (13:00~16:00) 《講義・演習・協議等》 県教育庁教育振興部高校教育課、 県体育研究所、県教育センター 指導主事		諸連絡

※第10日は、全体会のみ

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

【 若年教員研修会 1年目 教科別等研修 1年間の流れ 】

回	期日	教科別等研修の内容
1	4/19 (80分)	【教科別等研修のねらい】 教科別等研修のねらい、教科別等研修1年間の流れ、若年教員研修3年間の流れ、課題研修について、学習指導案について
2	5/17 (80分)	【学習指導要領の理解】 学習指導要領の理解、学習指導要領の理念、基本的な考え方、 【学習指導案について】 学習指導案作成の留意点、学習指導案作成の演習、教材研究の進め方
3	5/24~6/21	授業研修① ※先任者示範授業と初任者研究授業があります！
5	9/6 (320分) ※課題1 持参・提出	【教科等の授業づくり①】 学習指導案の検討、教科指導上の課題 【授業目標と授業デザイン】 年間指導計画について、目標に準拠した評価 【授業改善を進めるための取組】 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、ICTを活用した授業改善、教科独自 【効果的な授業研修のために】 授業研修の目的、授業研修の進め方
9	11/22 (240分) ※課題2 持参・提出	【効果的な課題研修のために】 課題研修の目的、課題研修の進め方 【教科指導について】 学習指導案の検討、教科独自

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

若年教員研修会 2年目 日程

11月14日(木)

教科別等研修

(9:50~12:10)

《講義・演習・協議等》

全体会

(13:10~14:40)

《講義》

「保護者等対応について」

全体会

(15:00~16:00)

《講義》

「いじめ・不登校に対する指導」

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

若年教員研修会 3年目 日程

第1日 6月13日(木)	第2日 9月12日(木)	第3日 12月3日(火)
開会行事(9:40~9:50)	全体会(9:40~10:40) 《講義》 「特別支援教育の動向と合理的配慮 について」	課題研修報告会 (9:40~16:00) 《発表・協議》
全体会(9:50~11:50) 《講義》 「組織運営への主体的参画」	全体会(11:00~12:00) 《講義》 「いじめ・不登校に対する指導」	
教育センター事業紹介 (11:50~12:00)		
教科別等研修 (13:00~16:00) 《講義・演習等》	教科別等研修 (13:00~16:00) 《講義・演習等》	

○ 若年教員研修 3年間の流れ

若年研	校内研修	課題研修	校外研修
1年目	授業研修 ※初任者研究授業3回 ※先任者示範授業2回 一般研修	課題研修 主題決定 ↓ 実践 ↓ まとめ ↓ 校内発表会	県教育委員会（2日） 県教育センター（10日）
2年目	校内研修（10日）		県教育センター（1日）
3年目	校内研修（7日） ※ 授業研修1 ※ 授業研修2		県教育センター（3日）

報告会発表資料提出

課題研修報告会

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

課題研修について

○ 課題研修とは

- ・ 初任者が、学校教育において直面する教科指導上の課題を明確化し、その課題の解決を図るために、指導を受けながら自主的に行う研修



目的：「**授業改善**」

“勘”や経験のみに頼らず、理論に基づいた指導方法を追究する

授業改善のための研究姿勢を育む

○ ゴールの姿1 (若年教員研修「課題研修」発表用資料)

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (研究主題)

-○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (副題) -

- 1 主題の意味
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の目標
- 4 研究の実際
- 5 研究の成果と課題

書式：A4、45字45行、
上下左右余白20mm
フォントサイズ
(主題14、他10.5)
両面1枚

○ ゴールの姿2 (課題研修報告会)

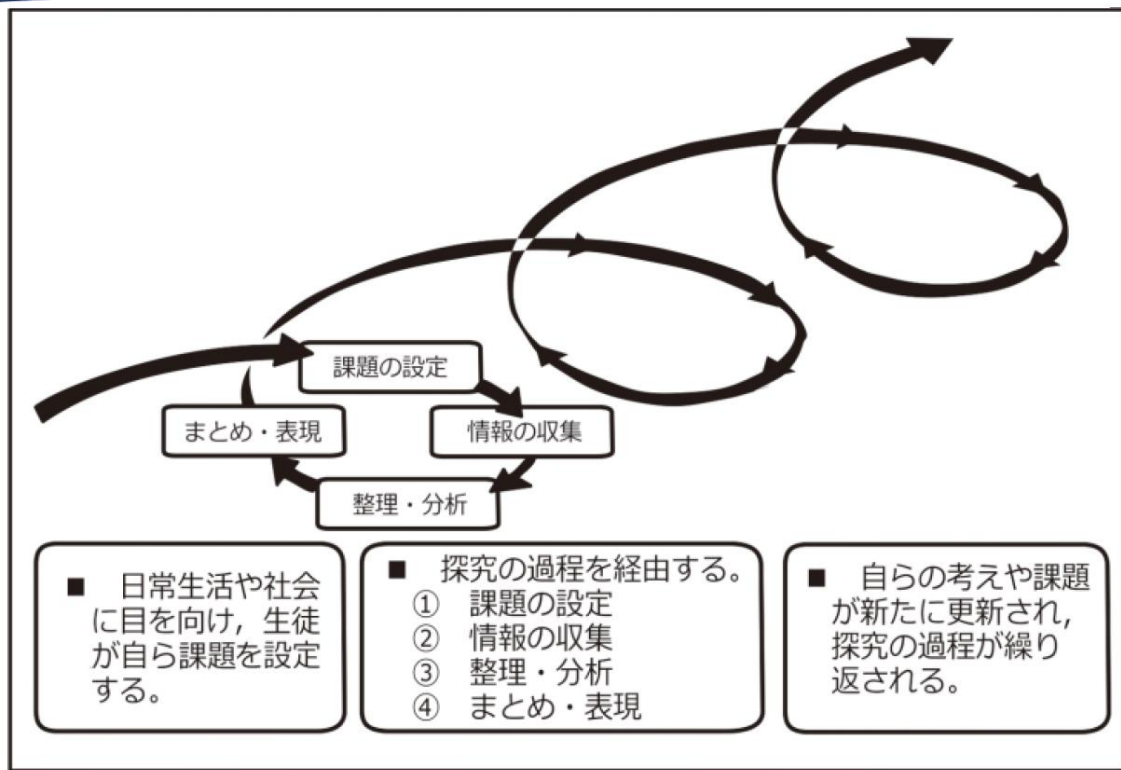
教科指導の取組を15分程度で報告＋自主的な会の運営

○ 概要

- 1 課題発見
- 2 主題・副題設定
- 3 実践
- 4 検証・分析
- 5 まとめ（報告書提出）
- 6 発表（校内・校外）

3年目に実施

1～3年目に継続的に実施



探究のプロセスと基本流れは同じ・・・授業改善にも役立つ

次のよりよい実践へ

○ 課題発見・・・理想と現実のギャップから

私は、～したい！

理想の生徒・教師像

教育活動：授業等

学力

学習指導要領

学校教育目標

学力

学習により変容

生徒・教師の現状



○ 主題・副題設定・・・発見した課題を焦点化

課題を「重要性」・「緊急性」・「実現可能性」から
吟味・**焦点化**・・・欲張りすぎない！！

理想像＝目指す生徒像を具体化

主題：どのような力をつけたいか・・・目的

副題：主題達成のための手立て・・・方法

- 若年者自身が、取り組みたい実践か
- 目指す生徒の姿は明確か
- 学習指導要領や学校教育目標に準拠しているか
- 教科の特質**は出ているか

○ 副題

(例)

種類	具体例
教材	ワークシート、自作教材 等
指導技術	発問、板書 等
授業形態	グループ、ペア 等
指導方法	活動構成、学習過程 等
評価方法	自己評価、相互評価 等
ICT活用	タブレット端末、プレゼンテーションソフト 等

※ 組み合わせて手立てとすることも多い

○ 主題と副題の例

主題：自身の研究で目指す生徒の姿＋対象・領域

副題：目指す生徒の姿を実現するために中心となる手立て

☆ 多面的・多角的な考察から問題を解決する力を養う数学科学学習指導
—学びあい活動を通して—

☆ 自らの学びを客観視することができる生徒の育成を目指した実践
—OPPA One Page Portfolio Assessment) の活用を通して—

☆ 数学教育を通じた表現力を育成する指導
—記述テストによる演習・相互評価を通して—

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

学習指導案について

教材研究にあたって

○高等学校学習指導要領（平成30年告示）

○高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編

P23 第1章 第3節 数学科の目標

P129 第3章 第1節 各科目にわたる指導計画
の作成と内容の取扱い

学習指導案について

令和6年度 県立学校教員研修資料

P. 32～

学習指導案の作成

P. 34～

学習指導案様式例

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料

P. 64 評価の観点及びその趣旨

○ 学習指導案とは

どのような**目標**で

どのような**内容**で

どのような**方法**で

どのように**評価**するのか



という綿密な指導計画

不十分な点を見直し、次に生かしていく

○ 学習指導案のよさ

授業者にとって ⇒ 指導力の向上

授業改善

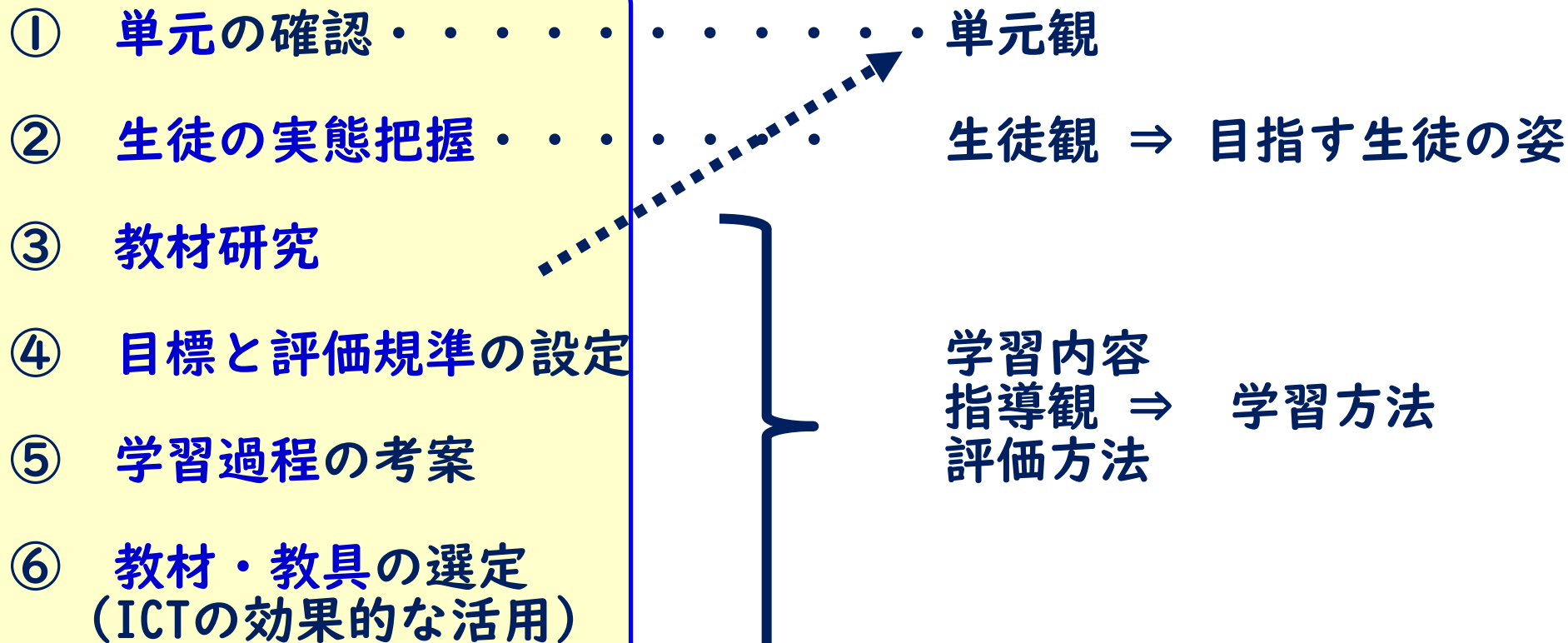
生徒にとって ⇒ 学びの適切な評価

学力向上

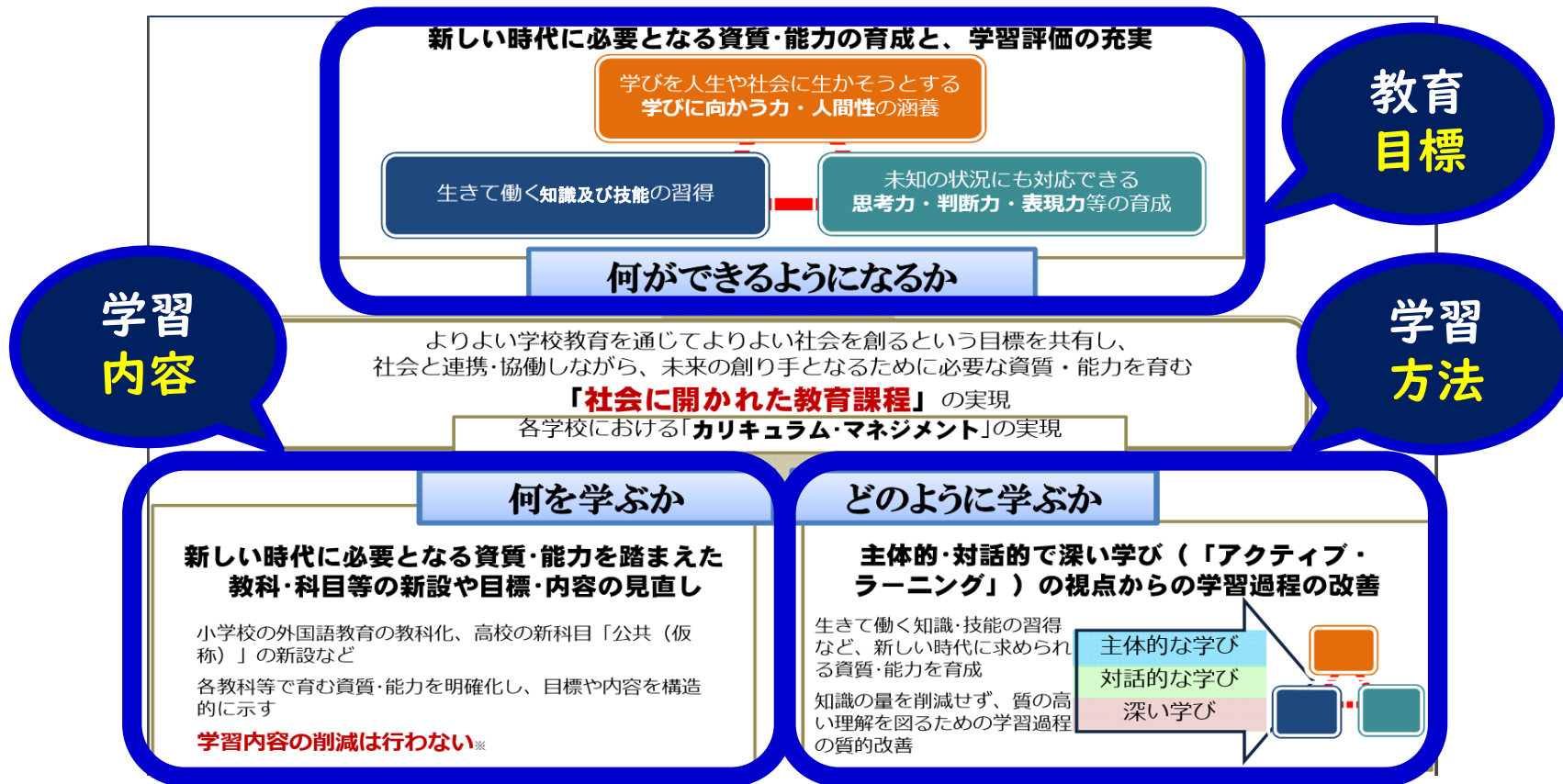
参観者にとって ⇒ 意欲の喚起

共有・改善

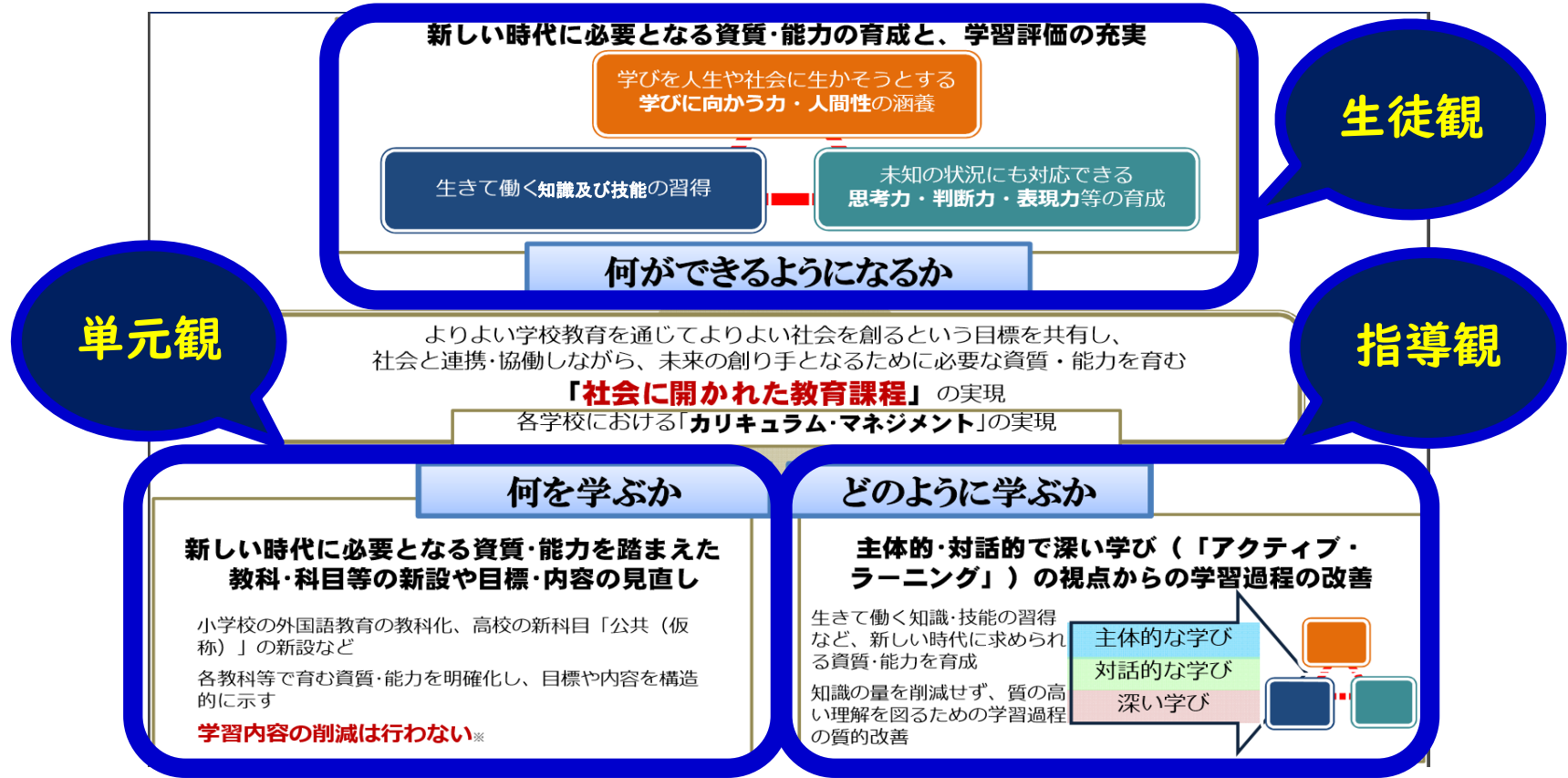
○ 学習指導案の作成手順



○ 学習指導要領：新学習指導要領（H30告示）の概要



○ 学習指導要領：新学習指導要領（H30告示）の概要



○ 生徒観

学校や学年の教育目標と比べて・・・

- ・ 授業クラスの生徒の強みは？
（学習内容について、学習活動について）
- ・ 授業クラスの生徒の課題はどこにあるか？
（興味・関心が高まりにくい、思考が持続しにくい、
表現力が高まっていないなど）
- ・ 診断的評価として、事前にテストをして把握することも



単元観・指導観につながる

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

○ 単元観



学習指導要領
学習指導要領解説



教科書



書籍類



教材研究を重ねる

○ 指導観

単元のねらう内容、目指す生徒の姿を踏まえて、
単元全体でどのような指導をするかを決定する

種類	具体例
教材	ワークシート、自作教材 等
指導技術	発問、板書 等
授業形態	グループ、ペア 等
指導方法	活動構成、学習過程 等
評価方法	自己評価、相互評価 等
ICT活用	タブレット端末、プレゼンテーションソフト等

主体的・対話的で深い学びの視点をもつ

○ 学習指導案にストーリー性をもたせよう



○ 「逆向き設計」で学習指導案を作成しよう

① 目標
目指す生徒像

教育活動：授業等

学力

② 生徒の
実態把握

学力

学習により変容

③ 学習内容、
学習方法・活動・評価の検討

学習指導要領・学校の教育目標 → 単元
単元の目標設定 → 指導・評価 方法 → 各授業

【様式】

県立学校教員研修資料P34～36

(教科名)科(科目名)学習指導案

○ 学校番号

学校名
指導者 職名 氏名
実施日時 令和 年 月 日 時限
実施学級 第 学年 組 名
実施場所

合計人数のみを記述する。

1 単元名

2 単元設定の理由

○ 単元(題材)観
単元観(題材)観、生徒観、指導観の記述内容は、本冊子前頁を参照する。

○ 生徒観
・単元全体の目標を簡潔に記述する。
・箇条書きではなく、まとめて示してもよい。
・身に付けるべき資質・能力を示すものとする。
(例)「～を理解する。」「～を身に付けるようにする。」等

○ 指導観

3 単元の目標

・ ○…………… 【知識及び技能】
・ ○…………… 【思考力、判断力、表現力等】
・ ○…………… 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

・ 教科及び学校の実情に応じて設定する。
・ 何を身に付けさせるのかを示す。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①○…………… ……………	①○…………… ……………	①○…………… ……………
②○…………… ○○……………	②○○……………	○○……………

・ 単元の目標が達成されたと判断できる規準を生徒の姿で書く。
・ 国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(高等学校編)」を参照する。
・ 単元の学習内容に従い、複数設定してもよい。
・ 順序性がある場合は、①、②…で示す。
・ 学習の過程を評価するものとする。
(例)「～について理解している。」「～を身に付けている。」「～に取り組もうとしている。」

5 単元の指導と評価の計画

次	配当時間	学習活動	評価の観点			評価規準(評価方法)
			知	思	態	
一	1	生徒の主な活動を、具体的に示す。 (例)「～に関する資料から、情報を読み取る。」 ※主な学習内容等の項目も示すこと。	①	①	●	評価規準と評価方法を簡潔に示す。 (例)①資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。 「ノートの記述分析」 「ICT成果物」
二	2					
三	2					

・ 評価規準については、「4 単元の評価規準」に示したものを各時間に位置付ける。
・ 学習内容や学習活動をふまえ、単元全体でそれぞれの時間で該当する評価規準を観点別記入する。
・ 国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(高等学校編)」を参照
(例)「学習改善につながる評価」を行う場合は「●」
「評定に用いる評価」は「○」を記入する。

6 本時(第○次 ○時間目)

(1) 本時の指導目標

・ ○…………… 【知識及び技能】
・ ○…………… 【思考力、判断力、表現力等】

「5 単元の指導と評価の計画」に基づき、本時の目標を3つの観点で具体的生徒の姿で記述する。
例 5 単元の指導と評価の計画では、第二次の1時間目は「知識・技能」と「思考・判断・表現」に①を付けている。(2つの観点で評定に用いる評価を行う計画を立てた。)
→ 本時の指導目標は「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」で設定する。

(2) 本時の手立て

・ 本時の指導目標を達成させるための教師の手立てを書く。
(手立てによって、どのような効果が期待されるかを示す。)
・ 生徒にとって「気づき」となる場面を設定すること。

(3) 教材

(4) 学習の展開

学習活動	時間配当	学習形態	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
生徒の学習活動を促進させるための働きかけや工夫などを「学習活動」等に対応させて具体的に記述する。				

・ 前後の連続性や関連性を考え、生徒の思考が変容するように構成する。
・ 生徒の主な活動を生徒主体として具体的に記述する。

「(1) 本時の指導目標」に対応させ、その目標を達成した具体的な生徒の姿を具体的に記述する。
(例)「～を理解している。」
「～を表現している。」
「～追究しようとしている。」
教師が見取ることができる行動として記述する。

評価の方法を具体的に記入する。
(例)「ノートの記述分析」
「レポートの内容分析」
「学習記録に関するデータ」
「様相観察」等

指導上配慮しておくべき事項を記述する。

知・思・態のようにより、評価規準の項目も書く。

まとめ

(5) 板書等計画

(5) 学習指導案を見る視点

授業は、教師と生徒の間に教材という媒体があって成り立ちます。よりよい授業を設計するには、教師は生徒と教材を熟知する必要があります。

また、学習指導案は、学習指導要領に基づいて作成しますが、学校の教育目標に沿った教科の目標を設定し、生徒の実態を把握した上で教材を分析・研究して効果的な指導法を考案することが大切です。よりよい学習指導案を作成するためには、次のような視点で学習指導案を見直すといでしょう。

	学習指導案を見る視点
指導目標の明確化	・ 単元(題材)の指導目標(学習指導要領による指導内容)を適切に指導計画に位置付けているか。 ・ 単元(題材)、指導計画、本時のねらいは整合性が図られているか。 ・ 本時の指導目標が明確に押さえられているか。
教材の追究	・ 教材の価値や本質について十分に把握しているか。 ・ 教材の系統性について把握しているか。 ・ 教材の他教科との関連について把握しているか(教材の何を教えるのか、教材で何を教えるのか)。
実態の把握	・ 単元(題材)にかかわる既習事項の定着度を把握しているか。 ・ 単元(題材)にかかわる生活体験を把握しているか。
指導について	・ 実態を踏まえた指導計画となっているか。 ・ 単元(題材)の中に個に応じた指導計画が位置付けられているか。 ・ 本時の指導にグループ学習等の指導形態の工夫がされているか。 ・ 本時の指導に適切な資料や教具等が用いられているか。 ・ 言語活動の充実やICTの活用等を効果的に計画しているか。
評価について	・ 単元(題材)の評価計画は指導計画と一体化し、適切か。 ・ 本時の評価場面、評価方法は適切か。 ・ 指導の目標に照らして観点別評価を計画しているか。

○ 学習指導案の構成（全体像）

- 1 主題名
- 2 **単元設定の理由**
 - 単元観 ○ 生徒観 ○ 指導観
- 3 単元の目標
- 4 単元の評価規準
- 5 単元の指導と評価の計画
- 6 **本時**
 - (1) 本時の指導目標 (2) 本時の手立て
 - (3) 教材 (4) 学習の展開
 - (5) 板書等計画

○ 単元観

- 1 主題名 ← 学習指導要領の内容とその取扱いの
- 2 単元設定の理由 小項目等を参考に

○ 単元観 **この単元で何を身に付けさせるか**

- ・ねらい：「本単元では、～をねらっている」
 - ・指導内容：「～を取り扱う」
 - ・教材分析：「本教材の特徴は～」
 - ・教材価値：「本教材は～価値がある」
 - ・指導内容の系統：「前学年では～、次学年では～」
 - ・学習指導要領の指導内容との関連
- など

○ 生徒観

○ 生徒観 **生徒の現状（学習内容・学習活動）**

- ・ 生徒が現段階で身に付けていることは？
「生徒は、～についての興味・関心は高い」
「～について、～することはできる」
- ・ 生徒が今後身に付ける必要があることは？
「一方、～することについて課題がある」
「～の経験が少なく、～を向上させる必要がある」
- ※ アンケート等を活用し、具体的に記述
- ※ **人権面等に配慮した記述**を

○ 指導観

○ 指導観 **目標達成・課題克服のための手立て**

・ 生徒観 → 目指す生徒の姿

「～の指導に当たっては、～ができるようになることをねらう」

・ 目指す生徒の姿を目指し、単元全体を通して何をするか

「～ため、～活動を取り入れ、～の段階を設定・・・」

・ 手立ての詳細（どの場面で何をどのようにするか）

「○○の段階で、生徒が△△できるよう◇◇を使用し・・・
その際、☆☆に留意し・・・」 ← 具体的に！！

主体的・対話的で深い学びの視点
ICTの活用など

○ 単元の目標・単元の評価規準

3 単元の目標

単元全体の目標を簡潔に記述

4 単元の評価規準

何を身に付けさせるのかを示す

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	①	○
②	②	○

順序性がある場合は、番号で

※ 学校・学年によっては四観点

観点別に「単元の目標が達成された」と判断できる規準をまとめる

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(高等学校版)」参照

○ 単元の指導と評価の計画

●、○(①、②…)等の表記は
教科によって異なる

5 単元の指導と評価の計画

- 単元の指導計画
学習内容と学習活動を
具体的に、分けて記す
「・」…学習活動
- 単元の評価計画
単元全体で、どの観点をどの方法で評価するのか
具体的に記入する

次	配当 時間	学習活動	評価			評価方法
			知	意	態	
一	3	○複素数平面 ・複素数を複素数平面上に表す。 ・複素数の絶対値を求める。 ・複素数の和・差・実数倍を計算する。 ・複素数の性質を理解し、活用する。	① ②		①	記述分析 様相観察
二	2 (本時)	○複素数の極形式 ・複素数を極形式で表す。 ・複素数の極・高を計算する。 ・複素数の極・高の図形的な意味を理解する。	① ②	①	①	記述分析 様相観察
三	2	○ド・モアブルの定理 ・ド・モアブルの定理を理解する。 ・複素数の n 乗根を求める。		②	① ②	様相観察
四	3	○複素数と図形	③		●	記述分析

「4 単元の評価規準」との整合性
毎時間全観点の評価は不要

○ 本時

6 本時

単元目標を焦点化・重点化し、生徒の姿で記す

(1) 本時の指導目標

- ※ 各目標には、評価の観点を記載
- ※ 「3単元の目標、4単元の評価規準、5単元の指導と評価の計画、6－(4)学習の展開の評価」との整合性
- ※ 本時で見取ることができる目標

○ 本時

本時の目標を達成するための方法

(2) 本時の手立て

(例)

「～を用いて、～する時間を設ける」

「～するために～する」

-
- ・ 教具の使用…ワークシート・ICTなど
 - ・ 活動の具体…ジグソー法を…、～グループ編成で…

○ 本時

(4) 学習の展開 (学習指導過程)

学習活動	時間 配当	学習 形態	指導上の 留意点
導入 ○前時の内容の復習 ・前時の内容を復習する。	2分	一斉	答えを 後には くよ る。
Stand up! ・初項 a 、公差 d の等差数列一般項 ・ $\frac{1}{2}a$ ・ $\frac{1}{2}a$		個人	問題を に投
・プリントの問題を解く。	2分	個人	問題を に投
Warm up! □ に当てはまる数を求めよ。 (1) 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, □ (2) 16, 23, 28, 38, 49, 62, 70, □ (3) 3, 5, 9, 15, 23, □		個人	問題を に投
・ペアで答えを共有する。	1分	ペア	答えを につい するよ する。
・答えを確認する。	2分	一斉	規則性 ること れるこ

【学習活動】

- ・「何を学ぶか、どのように学ぶか」を
生徒主体に記述
(例) まとめる、調べる、話し合う
- ・連続性や関連性を考える
- 内容や活動が本時の目標達成に
つながるように

○ 本時

(4) 学習の展開 (学習指導過程)

	・学習活動	時間 配当	学別 形態	指導上の留意点
導入	○前時の内容の復習 ・前時の内容を復習する。 2分	2分	一斉	答えられない生徒には周りに聞くよう声をかける。
	Stand up! ・初項 a 、公差 d の等差数列の一般項 ・ $\frac{a_1}{a_2}$ まで ・ $\frac{a_2}{a_3}$ まで			
	・プリントの問題を解く。 2分	2分	個人	問題を電子黒板に投影する。
	Warm up! □ に当てはまる数を求めよ。 (1) 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, □ (2) 16, 23, 28, 38, 49, 62, 70, □ (3) 3, 5, 9, 15, 23, □			
	・ペアで答えを共有する。 1分	1分	ペア	答えを導く過程についても共有するように指導する。
	・答えを確認する。 2分	2分	一斉	規則性に着目することで求められることを説明

【指導上の留意点】

- ・ 教師の働きかけを、**教師を主語**にして具体的に記述
(例) 「～できるようにするため、～の場を設定する」
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの工夫も意識を

○ 本時

(4) 学習の展開 (学習指導過程)

	・学習活動	時間 配当	学習 形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	○前時の内容の復習 ・前時の内容を復習する。	2分	一斉	答えられない生徒には周りに聞くよう声をかける。	
	Stand up! ・初項 a 、公差 d の等差数列の一般項 $\cdot \sum_{k=1}^n a + (k-1)d$ $\cdot \sum_{k=1}^n a + (k-1)d$				
	・プリントの問題を解く。	2分	個人	問題を電子黒板に投影する。	
	Warm up! □ に当てはまる数を求めよ。 (1) 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, □ (2) 16, 23, 28, 38, 49, 62, 70, □ (3) 3, 5, 9, 15, 23, □			変化を見だし、その規則性を数学的に表現し考察することができる。【思考・判断・表現】(ノートの記述分析)	
	・ペアで答えを共有する。	1分	ペア	答えを導く過程についても共有するように指導する。	
	・答えを確認する。	2分	一斉	規則性に着目することで求められることを説明	

【評価規準】

- ・ 本時指導目標と対応
- ・ 1~2項目に絞る
- ・ 生徒の姿を具体的に
- ・ 評価方法を具体的に
(例) 様相観察、
ノートの記述分析
- ・ 適切な方法を!

○ 本時

(5) 板書等計画

(5) 板書等計画

黒板

面積の計算

 $f(x) \leq 0$ のとき

$$S = \int_a^b \{-f(x)\} dx$$

※対応するグラフを
かく。

プリント②の解答

※生徒に板書させ、解答を確
認する。

スライドを投影

※PowerPointを投影した後、
例題8の解説を行う。

【板書等計画】
・スライド資料等
の添付でも可

教科別等研修の
ねらい

教科別等研修の
1年間の流れ

若年教員研修
3年間の流れ

課題研修に
ついて

学習指導案に
ついて

先行事例を参考に時短しよう！～指導案データベース～

※福岡県教育センター

センター紹介

研修

研究・教育情報



新着トピック

- 2024年4月1日 令和6年度キャリアアップ講座(配信のみの講座)を公開しました(令和6年4月1日～令和7年3月7日)
- 2024年3月13日 令和6年度キャリアアップ講座の講座紹介(詳細版)を公開しました！
- 2024年2月19日 「知りたい！福岡教師塾」のページを公開しました!!
- 2024年1月29日 令和5年度福岡県教育センター(義務制)研究報告会【報告書】について
- 2024年1月11日 令和5年度福岡県教育センター研究発表会について



サイト内検
キーワード

2024年4
・3月

日

7

14

21

研修

各研修の期日・場所・持参物等は下記からご確認
ください。



研究・教育情報

指導案データベース



支援

サポート・シリーズ

